

転生させる側も大変な  
んです

ベルンと申します！！

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

最近では現世で転生する漫画や小説が流行っている

皆さんは考えた事があるだろうか、転生される側ではなく転生させる側の事を、このお話はメイランという神と助手の日常のお話

どうも始めまして！ベルンと申します!!

これが初めて書く小説なので少しおかしな部分があると思いますが、暖かい目で見てやってください

それでは、どうぞ

# 目次

転生させる側を覗いてみませんか？

1



転生させる側を覗いてみませんか？

神様だつて楽じゃない、

面倒をみなきやいけないのは人間だけではなく、他の神達や死んでしまった人間の魂や動物の魂の管理もしなければならぬ。

神は私以外にもいますが、

それでも仕事の量を見ると、まだまだ人手は足りないのです。現世でいうと…：そうです、ね、「猫の手も借りたい」という状況です…

申し遅れました。

私、メイランが担当している仕事は「転生神」といって、

くじ引きで決めた人間を違う世界に転生させるといふ仕事です。仕事の内容を聞くのと転生させるだけで簡単だと思われがちですがそこそこ大変なんです

—コンコン

すみません、仕事の時間のようなので私はこれで失礼しますね、この先のお話をお楽しみくださいね。

---

「コホン、どうぞー」

「あのー、ここで転生の手続きが出来るって聞いたんですけど…。」

「はい、こちらで間違いないですよ。」

お名前は寺田浩二さんで間違えなですか？、ご希望の転生先を教えてください。」

「はい…んー…それじゃあどこでもいいので適当にお願いします」

（うわあー出たよ、一番面倒臭い奴だ）

「それでは…こちらであなたに適した世界に転生させるということでよろしいでしょうか？」

「はい、なるべく楽に生きたいですね」

「分かりました、それでは外でお待ちください」

バタン

はい、それでお願います」

「それでは、外でお待ちください。」

ーバタン

んー…どうしようか…

前世の記録からみると、

次の人生は余り良い人生をおくらせる訳にはいかないのかなあ…。

大きな善行は全くなし…

それに対して…ふーん。

大きな悪行はある、殺人か…よし!!決めた。

まずは名前の欄、寺田浩二を消して無名にする、転生先は普通の王国でいいや…特典はなし、性別と外見の変更はなし、よしこれで完璧だ!

「じょーしゅーこれ上に提出しといてー」

「助手使いの荒らい神様だ、了解です」

「一言余計なのよ。」

…だけど仕事してくれるなら文句はないわ…んじゃ提出ついでにさっきの奴呼んでおいてー…。」

「了解しました」

「おい、転生手続きの続きだ、さっさと行け」

「はあ、分かりました」

コンコン シツレイシマス

「…こいつ、ほぼ地獄行きみてえなもんだな、メイラン様もよく平然と話せるな、今から自分が地獄に落とす人間と会話なんて、俺には無理だな」

4 転生させる側を覗いてみませんか？

「さて寺田君よ、転生する準備は大丈夫かな？」

「はい、いつでも大丈夫です」

「よしっ今から扉を出現させるよ、せいっ！」

ゴゴゴゴ

「おお…この扉の先に行けば転生できるんですか？」

「そうだよー、それじゃあ気を付けてねー」

「はい、ありがとうございます」

キイイイ…バタン

「…辛いだらうけど頑張っつてね、名無しの捨て子君」